

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104969
法人名	医療法人 順風会
事業所名	グループホーム星岡
所在地	松山市星岡二丁目8番24号
自己評価作成日	平成 23年 9月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 有する機能を生かす支援に力を入れている。
 * 健康管理や医療面で医師、看護師との連携を密にし安心して暮らせるよう配慮している。
 * 園児との交流、地域の盆踊りへの参加、定期的な移動喫茶等、地域の方に支えて頂いている。
 * グループ内職員によるイベント(日本のお正月、ひな祭り、盆踊り、クリスマス会等)は本格的である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は高齢者複合施設の一角にあり、同じ法人やグループ内に病院や高齢者施設、障害者施設、保育園等が数多くあるため、利用者の様々な状況に対応できる環境が整っている。特に健康管理の面では高齢者複合施設の看護師がいるため安心である。地域の行事を施設の4階で行い、利用者も参加している。町内会長や民生委員が協力的で積極的に関わっており、ボランティアの受け入れも精力的に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

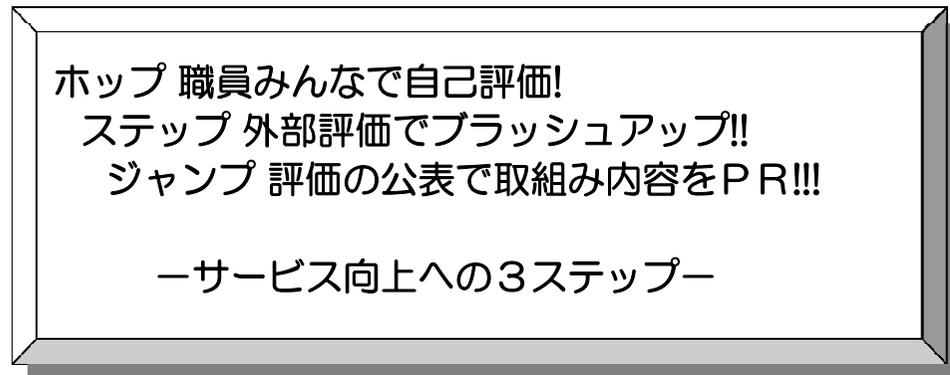
※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。



事業所名	グループホーム星岡
(ユニット名)	花 組
記入者(管理者)	
氏 名	井上 美恵子
評価完了日	23年 9月 5日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で理念を考え、朝礼や職員会議で唱和している。日々の生活の中で出来る事を実践していけるよう入居者が見える所に掲げ取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 利用者にも役割を持ってもらう等、協力してもらいながら共に理念を実践するよう取り組んでいる。朝礼の時に唱和する等、いつも理念を忘れないよう心がけている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域のお祭り、敬老会などに積極的に参加したり、幼稚園、保育園との交流を行っており、2ヶ月に1回の移動喫茶では、ボランティアの方々の参加により、近隣との交流が持てている。</p> <p>(外部評価) 地域の敬老会を施設の4階で行い、利用者も参加させてもらっている。町内会長や民生委員が地域の様々な方に声をかけてくれ積極的に関わってくれる。移動喫茶を運営推進会議と隔月で行っており、ボランティアが大勢協力してくれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 人材育成の為、実習生の受け入れを積極的に行っている。また随時、地域の方から認知症高齢者介護について相談を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議では幅広い方面から参加して頂き、さまざまな視点からの意見を参考にサービスの向上に役立っている。	
			(外部評価) 奇数月の第4月曜日に開催を取り決めており、定例化されている。利用者の家族や町内会長、民生委員等様々な立場の方が参加している。他のグループホームの職員の参加があったり、参加させてもらったりしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議において行事、イベント等の写真やグループホーム新聞を見て頂いたり、日頃の取組みを伝えたり、参加して頂いている介護保険課の担当の方からアドバイスを頂いて改善に繋げている。	
			(外部評価) 事業所の介護支援専門員が中心になり連携を図っている。運営推進会議に参加してもらっており、その後に相談や話し合いをすることもあり、良好な関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の勉強会に参加し職員会などで話し合いを行い、よりよいケアに取り組んでいる。また身体拘束の定義等を掲示し常に意識付けしている。	
			(外部評価) 管理者が気になる言動等に対しては注意をしたり、職員同志で注意をし合い身体拘束をしないケアを実践している。研修会に参加した職員が得た知識は、他の職員に資料を回覧する等、共有する仕組みがある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加した職員に勉強会をしてもらい意見を出し合っている。また職員のストレスが溜まらないよう話し合いを行ったり休憩を十分に取れるよう配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で、講師を招き勉強を行うなど理解を深めるようにしている。今後入居者に必要となる時には活用出来る様支援していく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に利用料や起こりうるリスクなど詳しく説明し、同意を得ている。また利用料の改定等の際にも詳しく説明し、同意得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年1回の家族会では家族だけで話し合いができる時間を設定し、自由に意見が出せる雰囲気作りに心がけている。また玄関には意見箱を置いている。 (外部評価) 家族会を年1回開催している。家族から家族同志で話のできる時間が欲しいという要望から、意見交換の時間を設ける等、家族の意見を出しやすい雰囲気や環境を整えている。出された意見に対しては、真摯に検討し改善につなげたり、理解を得るために丁寧に説明を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回職員会を行い、意見や要望を出しやすい雰囲気作りを行い、働く意欲の向上や質の確保に繋げるようにしている。 (外部評価) 職員会を月1回開催しており、施設長や看護師長も参加し活発な意見交換が行われている。また、施設長や副施設長、事務長が同席しての個人面談が行われており、特に新任職員については半年くらいを目安に意見を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職場でのストレスや疲労を溜めないよう気分転換できる休憩室を確保したり、職員の資格取得に向けて情報提供したり、取得後は給与に反映され、向上心を持って働けるよう配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内外で行われる研修会には代表が参加し、職員会で発表し、研修内容は全職員が把握できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会に所属し、他事業所との交流や勉強会を行い、サービスの質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学に来られた時や入居される段階で本人の生活状況を把握し、困っていること、要望等さりげなく会話の中で引き出すよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に家族の苦労や今までのサービス利用状況などお聞きして、より良い生活ができるよう、不安、要望等に耳を傾けながら一緒に考えるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初めて相談に来られた時に本人、家族が今一番必要としている支援を見極め、可能な限り柔軟に対応している。場合によっては他のサービス利用（ショートステイ、老健等）に繋げたりもしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 理念に掲げている「入居者を敬う気持ち」を職員全員が共有しており、入居者に教えて頂いたり、励ましてもらう場面もある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃の状態をご家族に報告、相談し、一緒に本人を支えていくよう心がけている。ご家族が来訪時に他の入居者と将棋をして下さったり、玄関のお花をいつも気にしてかけて下さる方もおられる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 奥様の月命日に娘さんと毎月お墓参りに行かれる方、毎朝友人や家族に電話をかけられる方もおられ、馴染みの関係が継続できるよう支援している。 (外部評価) 地域の方が犬の散歩の途中で寄ってくれたり、以前利用していた方が訪問してくれる等、馴染みの方がよく来てくれる。また、携帯電話を持参している利用者や、公衆電話で家族等に連絡をする利用者が気軽に電話をかけられるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者さんが孤立しないように全員が参加できるレクリエーションやお茶の時間を持っている。入居者同士の関係が円滑になるように職員が調整役になっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院などで契約が終了してもお見舞いに行ったり、関係を保ちながら相談にのっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で表情や行動から思いを汲み取ったり、ご家族や関係者の方から情報を得たりして、思いや意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 利用者の思いや意向を把握するために家族等から情報を得ている。家族の要望を取り入れながら、利用者が笑顔になるよう取り組んでいる。遠慮をする利用者には職員から声をかけ、希望や要望を積極的に聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時や面会時にご家族や本人から聞き取ったり、ご家族の了解を得て親戚の方から情報を提供して頂いたり本人の全体像の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の暮らしの中で本人のできることを、わかる力を把握し、職員がそばで一緒にやってみる場面を作りにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 入居者により良く暮らして頂く為に、ご家族や職員の気づきや意見を反映し、本人本位の介護計画を作成している。	
			(外部評価) 職員全員で検討し合って目標達成状況を数値化できるような様式を作成し、次の目標を立案する根拠としている。利用者にシールを貼ってもらう等、やる気につながるような取り組みを行っている。目標やサービス内容が多くなり過ぎて利用者の負担にならないよう配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 気づきや入居者の状態変化は小まめに職員間で報告し話し合い、入居者に一番良いように情報共有を徹底し介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、家族の状況や要望に臨機応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 月1回園児との交流、2ヶ月に1回定期的に行われるボランティアさんの協力による移動喫茶、運営推進会議に参加して頂く方々との情報交換等協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望するかかりつけ医で診察が受けられ るよう、家族と協力して通院介助等を行い、日頃の様 子や変化を伝えるようにしている。	
			(外部評価) 同じグループ内の病院がかかりつけ医である利用者が 多く、日常の健康管理は同じ建物内の施設の看護師が 医師と連携をとりながら行っている。専門科の受診に ついては、かかりつけ医が紹介状を作成し受診が円滑 に行われるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常生活の中で心身状況の変化や表情の変化などを見 逃さないよう早期発見し、直ちに看護師に報告し適切 な医療に繋げている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時、本人の支援方法に関する情報を提供し、時期 を見ながら職員がお見舞いに行っている。また家族と 回復状況等の情報交換し、退院支援に結び付けてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の意向を踏まえ、事業所側が対応し得るケ アの説明を行い、状況に応じて主治医、家族を交えて 話し合いながら支援している。	
			(外部評価) 家族とよく話し合いを行い方針を決定している。同じ グループの特別養護老人ホーム等で終末期ケアに携 わった経験のある職員が多く、利用者や家族の意向を 大切にケアが実践されている。	利用者の介護度が重度化傾向にあり、高齢の利用者 が多いことから急激に重度化することが懸念され る。看護師等の協力が得られる体制が構築されてい るが、介護職員の研修や勉強会を実施し、より良いケア が提供できるよう取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は応急手当講習を順次受講し、AEDの使用方法も理解している。緊急対応マニュアルを整備し全職員に周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回夜間の火災を想定して避難訓練を施設全体で行っている。全職員が対応できるよう真剣に取り組んでいる。地域の自主防災訓練にも入居者、職員で参加したり、運営推進会議等で非常時の協力をお願いしている。 (外部評価) 避難訓練等については年2回、様々な状況を設定して施設と合同で行われている。町内会の防災訓練にも参加しており、地域の避難所として協定を結んでいる。同じグループ内には防災危機管理委員会が設置されており、災害に対しグループ全体で取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者を敬う気持ちを忘れないよう、理念に掲げ、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。また本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけている。 (外部評価) トイレへの誘導は、周りの利用者に気付かれないようさりげなく行っている。個人情報に記載された書類は鍵のかかる棚に保管されている。職員心得五か条を定め、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で一人ひとりの力に合わせて、たとえ二者択一であっても自己決定できるような場面をつくるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。その日の体調、様子を見ながら、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) パジャマから洋服への着替え、洗顔、整髪等身だしなみには気をつけている。行事や日頃からも化粧品やスカーフ、アクセサリー等で昔のご自分を取り戻せるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 米とぎ、煮干しの頭取り、プランターに植えてあるねぎ取り、ミニトマトの収穫等職員と一緒に楽しく行っている。またそうめん流しや芋たき等季節感を味わって頂けるよう支援している。 (外部評価) ミニトマト等を栽培し、利用者と収穫している。収穫したものは食材として取り入れている。おかずは施設の厨房で作られているが、ご飯や味噌汁はユニットごとで作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士の作成したメニューに基づいて調理し、一人ひとりの摂取量をチェックし、健康管理に気を配っている。特に水分管理の必要な方は水分摂取量も記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分でできる方は声かけ見守りし、できない方に関しては毎食後のケアを介助にて行っている。グループ内の歯科衛生士の指導を受けながら、その人に合った口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) チェック表で排泄パターンを把握した上でトイレ誘導を行い、失敗を減らし、トイレでの排泄ができるよう支援している。失禁の少ない方には布パンツを使用して支援している。	
			(外部評価) 利用者の様子や時間を見ながらトイレでの排泄ができるよう声をかけ、誘導している。排泄チェック表を付け、排泄状況を把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 散歩などを行い、腸の働きを促すよう努めたり、乳製品や寒天ゼリーを提供したり、水分補給に努め、なるべく自然排便できるよう取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ずつゆっくりとリラックスして入浴できるよう心がけている。好きな歌を歌ったり、1対1で会話できる場所なのでゆっくり話を聞くようにしている。入浴を拒む方には時間をおいて声かけしたり、対応を工夫している。入浴しない日は足浴器で足浴をして頂いている。	
			(外部評価) 体調不良等で入浴できない利用者は清拭を行い、清潔を保つよう努めている。職員は楽しく会話したり、歌を歌ったり工夫をしながら気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動を促し、その日の一人ひとりの体調や希望等を考慮して個別にソファやベッドでゆっくり休息が取れるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりが服用する薬の内容は個人ファイルで職員がいつでも確認できるようにしている。その人に合った服薬方法を取り、また症状の変化の確認に努め、看護師や医師に情報提供している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野で一人ひとりの力を発揮できることを役割としてお願いし、感謝の気持ちを伝えるようにしている。またイベントやレクリエーション、買い物等個々に合わせて楽しみごとの支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お花見や地域の盆踊り大会等の外出行事についてはボランティアの方やご家族に協力をお願いして出かけている。「〇〇さんの日」と称し入居者と相談しながら個別に外出支援している。	
			(外部評価) 近くの川に散歩に行ったり、パンを買いに行ったりできるだけ外出の機会を多くするよう心がけている。また、「〇〇さんの日」を特別に定め、希望する場所に行ったり外食をする等、外出支援に力を入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望や能力に応じて自分で管理している方もおられる。月1回買い物の日を設け、希望により出かけ、自分で選んだり、支払ったりすることを支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎朝、家族や友人に電話することを日課としている方もおられる。高齢の為、面会に来にくい家族に手紙を書くことをケアプランに入れ支援している方もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下には季節ごとの行事の写真を掲示したり入居者の作品や手作りカレンダーを貼ったり親しみやすい雰囲気作りを心がけている。	
			(外部評価) 行事の写真や習字等利用者の作品を飾り、楽しい雰囲気づくりをしている。トイレやお風呂等も清潔で、気になる臭い等もなく快適である。また、騒音もなく窓からは心地よい風が入り、利用者が快適に過ごすことができる環境が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下や食堂にソファを置き、仲の良い同士でくつろいだり、一人でゆったりと過ごせるスペースがある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は個室になっており、使い慣れた家具や写真を自由に持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) テレビやダンス等、使い慣れたものやお気に入りのものを自由に持ち込み、居心地の良い個性豊かな居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室やトイレ等に目印や表示をしたり、身体状況に応じて、歩行器、押し車等使用して頂いたり、車椅子を改造したりしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104969
法人名	医療法人 順風会
事業所名	グループホーム星岡
所在地	松山市星岡二丁目8番24号
自己評価作成日	平成 23年 9月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 有する機能を生かす支援に力を入れている。
 * 健康管理や医療面で医師、看護師との連携を密にし安心して暮らせるよう配慮している。
 * 園児との交流、地域の盆踊りへの参加、定期的な移動喫茶等、地域の方に支えて頂いている。
 * グループ内職員によるイベント(日本のお正月、ひな祭り、盆踊り、クリスマス会等)は本格的である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は高齢者複合施設の一角にあり、同じ法人やグループ内に病院や高齢者施設、障害者施設、保育園等が数多くあるため、利用者の様々な状況に対応できる環境が整っている。特に健康管理の面では高齢者複合施設の看護師がいるため安心である。地域の行事を施設の4階で行い、利用者も参加している。町内会長や民生委員が協力的で積極的に関わっており、ボランティアの受け入れも精力的に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム星岡

(ユニット名) 星 組

記入者(管理者)
氏 名 井上 美恵子

評価完了日 23年 9月 5日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で理念を考え、朝礼や職員会議で唱和している。日々の生活の中で出来る事を実践していけるよう入居者が見える所に掲げ取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 利用者にも役割を持ってもらう等、協力してもらいながら共に理念を実践するよう取り組んでいる。朝礼の時に唱和する等、いつも理念を忘れないよう心がけている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域のお祭り、敬老会などに積極的に参加したり、幼稚園、保育園との交流を行っており、2ヶ月に1回の移動喫茶では、ボランティアの方々の参加により、近隣との交流が持てている。</p> <p>(外部評価) 地域の敬老会を施設の4階で行い、利用者も参加させてもらっている。町内会長や民生委員が地域の様々な方に声をかけてくれ積極的に関わってくれる。移動喫茶を運営推進会議と隔月で行っており、ボランティアが大勢協力してくれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 人材育成の為、実習生の受け入れを積極的に行っている。また随時、地域の方から認知症高齢者介護について相談を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議では幅広い方面から参加して頂き、さまざまな視点からの意見を参考にサービスの向上に役立っている。	
			(外部評価) 奇数月の第4月曜日に開催を取り決めており、定例化されている。利用者の家族や町内会長、民生委員等様々な立場の方が参加している。他のグループホームの職員の参加があったり、参加させてもらったりしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議において行事、イベント等の写真やグループホーム新聞を見て頂いたり、日頃の取組みを伝えたり、参加して頂いている介護保険課の担当の方からアドバイスを頂いて改善に繋げている。	
			(外部評価) 事業所の介護支援専門員が中心になり連携を図っている。運営推進会議に参加してもらっており、その後に相談や話し合いをすることもあり、良好な関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の勉強会に参加し職員会などで話し合いを行い、よりよいケアに取り組んでいる。また身体拘束の定義等を掲示し常に意識付けしている。	
			(外部評価) 管理者が気になる言動等に対しては注意をしたり、職員同志で注意をし合い身体拘束をしないケアを実践している。研修会に参加した職員が得た知識は、他の職員に資料を回覧する等、共有する仕組みがある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加した職員に勉強会をしてもらい意見を出し合っている。また職員のストレスが溜まらないよう話し合いを行ったり休憩を十分に取れるよう配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で、講師を招き勉強を行うなど理解を深めるようにしている。今後入居者に必要となる時には活用出来る様支援していく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に利用料や起こりうるリスクなど詳しく説明し、同意を得ている。また利用料の改定等の際にも詳しく説明し、同意得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年1回の家族会では家族だけで話し合いができる時間を設定し、自由に意見が出せる雰囲気作りに心がけている。また玄関には意見箱を置いている。	
			(外部評価) 家族会を年1回開催している。家族から家族同志で話のできる時間が欲しいという要望から、意見交換の時間を設ける等、家族の意見を出しやすい雰囲気や環境を整えている。出された意見に対しては、真摯に検討し改善につなげたり、理解を得るために丁寧に説明を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回職員会を行い、意見や要望を出しやすい雰囲気作りを行い、働く意欲の向上や質の確保に繋げるようにしている。 (外部評価) 職員会を月1回開催しており、施設長や看護師長も参加し活発な意見交換が行われている。また、施設長や副施設長、事務長が同席しての個人面談が行われており、特に新任職員については半年くらいを目安に意見を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職場でのストレスや疲労を溜めないよう気分転換できる休憩室を確保したり、職員の資格取得に向けて情報提供したり、取得後は給与に反映され、向上心を持って働けるよう配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内外で行われる研修会には代表が参加し、職員会で発表し、研修内容は全職員が把握できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会に所属し、他事業所との交流や勉強会を行い、サービスの質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学に来られた時や入居される段階で本人の生活状況を把握し、困っていること、要望等さりげなく会話の中で引き出すよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に家族の苦労や今までのサービス利用状況などお聞きして、より良い生活ができるよう、不安、要望等に耳を傾けながら一緒に考えるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初めて相談に来られた時に本人、家族が今一番必要としている支援を見極め、可能な限り柔軟に対応している。場合によっては他のサービス利用（ショートステイ、老健等）に繋げたりもしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 理念に掲げている「入居者を敬う気持ち」を職員全員が共有しており、入居者に教えて頂いたり、励ましてもらう場面もある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃の状態をご家族に報告、相談し、一緒に本人を支えていくよう心がけている。ご家族が来訪時に他の入居者と将棋をして下さったり、玄関のお花をいつも気にしてかけて下さる方もおられる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 奥様の月命日に娘さんと毎月お墓参りに行かれる方、毎朝友人や家族に電話をかけられる方もおられ、馴染みの関係が継続できるよう支援している。 (外部評価) 地域の方が犬の散歩の途中で寄ってくれたり、以前利用していた方が訪問してくれる等、馴染みの方がよく来てくれる。また、携帯電話を持参している利用者や、公衆電話で家族等に連絡をする利用者が気軽に電話をかけられるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者さんが孤立しないように全員が参加できるレクリエーションやお茶の時間を持っている。入居者同士の関係が円滑になるように職員が調整役になっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院などで契約が終了してもお見舞いに行ったり、関係を保ちながら相談にのっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で表情や行動から思いを汲み取ったり、ご家族や関係者の方から情報を得たりして、思いや意向の把握に努めている。 (外部評価) 利用者の思いや意向を把握するために家族等から情報を得ている。家族の要望を取り入れながら、利用者が笑顔になるよう取り組んでいる。遠慮をする利用者には職員から声をかけ、希望や要望を積極的に聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時や面会時にご家族や本人から聞き取ったり、ご家族の了解を得て親戚の方から情報を提供して頂いたり本人の全体像の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の暮らしの中で本人のできることを、わかる力を把握し、職員がそばで一緒にやってみる場面を作りにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 入居者により良く暮らして頂く為に、ご家族や職員の気づきや意見を反映し、本人本位の介護計画を作成している。	
			(外部評価) 職員全員で検討し合って目標達成状況を数値化できるような様式を作成し、次の目標を立案する根拠としている。利用者にシールを貼ってもらう等、やる気につながるような取り組みを行っている。目標やサービス内容が多くなり過ぎて利用者の負担にならないよう配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 気づきや入居者の状態変化は小まめに職員間で報告し話し合い、入居者に一番良いように情報共有を徹底し介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、家族の状況や要望に臨機応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 月1回園児との交流、2ヶ月に1回定期的に行われるボランティアさんの協力による移動喫茶、運営推進会議に参加して頂く方々との情報交換等協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人や家族の希望するかかりつけ医で診察が受けられ るよう、家族と協力して通院介助等を行い、日頃の様 子や変化を伝えるようにしている。</p> <p>(外部評価) 同じグループ内の病院がかかりつけ医である利用者が 多く、日常の健康管理は同じ建物内の施設の看護師が 医師と連携をとりながら行っている。専門科の受診に ついては、かかりつけ医が紹介状を作成し受診が円滑 に行われるようにしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日常生活の中で心身状況の変化や表情の変化などを見 逃さないよう早期発見し、直ちに看護師に報告し適切 な医療に繋げている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時、本人の支援方法に関する情報を提供し、時期 を見ながら職員がお見舞いに行っている。また家族と 回復状況等の情報交換し、退院支援に結び付けてい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の意向を踏まえ、事業所側が対応し得るケ アの説明を行い、状況に応じて主治医、家族を交えて 話し合いながら支援している。</p> <p>(外部評価) 家族とよく話し合いを行い方針を決定している。同じ グループの特別養護老人ホーム等で終末期ケアに携 わった経験のある職員が多く、利用者や家族の意向を 大切にケアが実践されている。</p>	<p>利用者の介護度が重度化傾向にあり、高齢の利用者 が多いことから急激に重度化することが懸念され る。看護師等の協力が得られる体制が構築されてい るが、介護職員の研修や勉強会を実施し、より良いケア が提供できるよう取組みに期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は応急手当講習を順次受講し、AEDの使用方法も理解している。緊急対応マニュアルを整備し全職員に周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回夜間の火災を想定して避難訓練を施設全体で行っている。全職員が対応できるよう真剣に取り組んでいる。地域の自主防災訓練にも入居者、職員で参加したり、運営推進会議等で非常時の協力をお願いしている。 (外部評価) 避難訓練等については年2回、様々な状況を設定して施設と合同で行われている。町内会の防災訓練にも参加しており、地域の避難所として協定を結んでいる。同じグループ内には防災危機管理委員会が設置されており、災害に対しグループ全体で取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者を敬う気持ちを忘れないよう、理念に掲げ、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。また本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけている。 (外部評価) トイレへの誘導は、周りの利用者に気付かれないようさりげなく行っている。個人情報に記載された書類は鍵のかかる棚に保管されている。職員心得五か条を定め、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で一人ひとりの力に合わせて、たとえ二者択一であっても自己決定できるような場面をつくるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。その日の体調、様子を見ながら、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) パジャマから洋服への着替え、洗顔、整髪等身だしなみには気をつけている。行事や日頃からも化粧品やスカーフ、アクセサリー等で昔のご自分を取り戻せるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 米とぎ、煮干しの頭取り、プランターに植えてあるねぎ取り、ミニトマトの収穫等職員と一緒に楽しく行っている。またそうめん流しや芋たき等季節感を味わって頂けるよう支援している。	
			(外部評価) ミニトマト等を栽培し、利用者と収穫している。収穫したものは食材として取り入れている。おかずは施設の厨房で作られているが、ご飯や味噌汁はユニットごとで作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士の作成したメニューに基づいて調理し、一人ひとりの摂取量をチェックし、健康管理に気を配っている。特に水分管理の必要な方は水分摂取量も記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分でできる方は声かけ見守りし、できない方に関しては毎食後のケアを介助にて行っている。グループ内の歯科衛生士の指導を受けながら、その人に合った口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) チェック表で排泄パターンを把握した上でトイレ誘導を行い、失敗を減らし、トイレでの排泄ができるよう支援している。失禁の少ない方には布パンツを使用して支援している。	
			(外部評価) 利用者の様子や時間を見ながらトイレでの排泄ができるよう声をかけ、誘導している。排泄チェック表を付け、排泄状況を把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 散歩などを行い、腸の働きを促すよう努めたり、乳製品や寒天ゼリーを提供したり、水分補給に努め、なるべく自然排便できるよう取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ずつゆっくりとリラックスして入浴できるよう心がけている。好きな歌を歌ったり、1対1で会話できる場所なのでゆっくり話を聞くようにしている。入浴を拒む方には時間をおいて声かけしたり、対応を工夫している。入浴しない日は足浴器で足浴をして頂いている。	
			(外部評価) 体調不良等で入浴できない利用者は清拭を行い、清潔を保つよう努めている。職員は楽しく会話したり、歌を歌ったり工夫をしながら気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動を促し、その日の一人ひとりの体調や希望等を考慮して個別にソファやベッドでゆっくり休息が取れるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりが服用する薬の内容は個人ファイルで職員がいつでも確認できるようにしている。その人に合った服薬方法を取り、また症状の変化の確認に努め、看護師や医師に情報提供している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野で一人ひとりの力を発揮できることを役割としてお願いし、感謝の気持ちを伝えるようにしている。またイベントやレクリエーション、買い物等個々に合わせて楽しみごとの支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お花見や地域の盆踊り大会等の外出行事についてはボランティアの方やご家族に協力をお願いして出かけている。「〇〇さんの日」と称し入居者と相談しながら個別に外出支援している。 (外部評価) 近くの川に散歩に行ったり、パンを買いに行ったりできるだけ外出の機会を多くするよう心がけている。また、「〇〇さんの日」を特別に定め、希望する場所に行ったり外食をする等、外出支援に力を入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望や能力に応じて自分で管理している方もおられる。月1回買い物の日を設け、希望により出かけ、自分で選んだり、支払ったりすることを支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎朝、家族や友人に電話することを日課としている方もおられる。高齢の為、面会に来にくい家族に手紙を書くことをケアプランに入れ支援している方もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下には季節ごとの行事の写真を掲示したり入居者の作品や手作りカレンダーを貼ったり親しみやすい雰囲気作りを心がけている。	
			(外部評価) 行事の写真や習字等利用者の作品を飾り、楽しい雰囲気づくりをしている。トイレやお風呂等も清潔で、気になる臭い等もなく快適である。また、騒音もなく窓からは心地よい風が入り、利用者が快適に過ごすことができる環境が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下や食堂にソファを置き、仲の良い同士でくつろいだり、一人でゆったりと過ごせるスペースがある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は個室になっており、使い慣れた家具や写真を自由に持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) テレビやダンス等、使い慣れたものやお気に入りのものを自由に持ち込み、居心地の良い個性豊かな居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室やトイレ等に目印や表示をしたり、身体状況に応じて、歩行器、押し車等使用して頂いたり、車椅子を改造したりしている。	